

手術を受けられる患者さんへ



京都中部総合医療センター：手術部

《 目次 》

I. 手術前の準備について

1. 装飾品について
2. 頭髪やひげについて
3. 服装について
4. 禁煙について
5. 入院後、病棟での準備について

II. 手術当日、手術室での流れについて

1. 病棟から手術室へ移動
2. 手術室ベッドに移動後
3. 全身麻酔をします
4. 手術中
5. 手術終了後

III. 付き添いの方の待合場所について

IV. おわりに



I. 手術前の準備

1. 装飾品について

*手術室内で外せるものもありますが、以下のものは可能な限り病室またはご自宅で外していただきます。

《身に着けているとやけどの可能性のあるもの》

- ・指輪などのアクセサリー（ネックレス,イヤリング,ピアス,
ブレスレット,ヘアピン,腕時計など）
- ・磁気製品（ピップエレキバン）や湿布
- ・かつらやウィッグ
- ・血糖測定装置（リブレ）

《破損もしくは身体を傷つける可能性のあるもの》

- ・メガネやコンタクトレンズ
- ・義歯や補聴器

《身体の状態を観察できないもの》

- ・手術当日は身体の状態を観察するため、化粧品や保湿剤の使用,
マニキュアやペディキュアの塗布を避けてください。
マニキュアやペディキュアに関しては透明でも避けてください。

*以下のものは、手術室へ入室後に外すこともできます。
病棟の看護師にご相談ください。

- ・メガネや補聴器 → ケースを持参してください。
- ・かつらやウィッグ、帽子 → 装着して来られる場合は必ず病棟の看護師
に伝えてください。

2. 頭髪やひげについて

- ・ひげは呼吸管理チューブの固定が不安定になり、大変危険です。
できるだけ、剃っていただくようお願いします。
- ・頭髪が長く、まとめられる場合は金属のついていないゴムでゆるめに横で結んでください。(入室時に帽子をかぶり、手術室ベッドに仰向けで寝るため)

3. 服装について

- ・入院準備センター または 各診療科外来で説明された内容の通りとなります。

4. 禁煙について



- 1) タバコを吸われている方は、手術後に咳や痰が多くなります。そのため、呼吸器合併症や感染を引き起こす可能性が高くなるといわれています。**手術決定直後からの禁煙**をお願いします。
禁煙が守れない場合は手術が延期になる可能性もあります。

5. 入院後の病棟での準備について

- 1) 手術室入室までに病室で**身に着けてきて**ほしいもの。

マスク → 感染予防のために手術室の中で外します。

弾性ストッキング → 足の血栓を予防します。

(手術により着用しないこともあります。)

マウスガード → 歯の損失を防ぐことや気管への落下を防ぐ目的があります。

歯科外来で作成された場合は必ず装着してください。

- 2) 手術当日の**絶飲食の時間**は必ず守ってください。

*入院される病棟または外来の看護師が説明します。

*手術当日の水分は「お茶・水・スポーツ飲料・OS1（経口補水液）」のみとしてください。

- 3) 手術当日の朝の歯磨きはして頂いても良いです。

- 4) 病棟看護師が必ず一緒に手術室まで案内します。

手術室は1病棟2階です。

6. その他

- 1) 手術室内で好みの音楽を流すことができます。
病棟または手術室看護師に相談してください。



Ⅱ. 手術当日、手術室での流れについて

1. 病棟から手術室へ移動

- 1) 病棟の看護師とともに手術室へ移動します。



→ 移動方法はベッド、車いす、歩行のいずれかです。

＊入口で病棟看護師から手術室看護師への申し送りの後は、
手術室看護師が付き添います。

入口



入口扉の奥の様子



- 2) 入口で、**ご本人確認**のために腕または足首につけられたネームバンド
でお名前と生年月日を確認します。

＊お子様の手術に際し、保護者の方と一緒に手術室へ入室することが
可能です。(保護者の方1名までです。)

3) 手術室看護師が手術の部屋にご案内します。

手術室廊下の様子



一般的な手術室の様子



- 手術室のベッドに階段で昇ります。
- 階段の昇り降りが難しい方は、事前に病棟の看護師に伝えてください。ベッドの幅が狭くなっているため転落に注意してください。



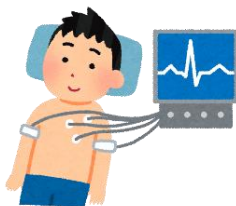
2. 手術室ベッドに移動後

1) 上半身の服を脱いでもらいます。



2) 手術室のベッドに仰向けに寝てもらい、心電図・酸素の値を測るシール・

血圧計をつけます。



• 点滴をします。点滴をしてはいけない部位のある方は教えてください。

• ベッドの幅が狭いので、安全のために手や足をバンドで軽く固定することがあります。

3) 硬膜外麻酔を行う場合（実施する時と、しない時があります。）

- 硬膜外麻酔とは、痛み止めのお薬を入れるための管を背中に挿入する麻酔の一つです。安全のため、全身麻酔で寝る前に行います。



手順1. 手術台の上で横になり、猫のように丸くなってもらいます。

2. 痛み止めの注射をして、細い管を背中に入れます。

3. 処置中に痛みが強い場合やしびれなどがあった場合は、我慢をせずにお知らせください。

* 背骨は大事な神経があります。処置中は動かないことが大切です。安全に処置が進むようご協力をお願いします。

- 硬膜外麻酔をされた場合、手術終了後に痛み止めの薬剤が入ったボトルが手元にあります。

使用する時は青いボタンを押してください。痛み止めの薬剤が流れます。



これが、痛み止めの薬が入ったボトルです。

3. 全身麻酔をします

- 1) 口元にマスクを当てます。酸素が流れてくるので、息を吸ったり吐いたりを繰り返してください。



- 2) 点滴から麻酔薬が入ると、いつの間にか眠ってしまいます。



- 3) 眠った後に口から喉の奥にチューブを入れます。

手術中、安全に呼吸をしてもらうために必要なものです。

チューブを入れる時に痛みは感じません。



4. 手術中

- ・手術ができるように姿勢をととのえます。
- ・手術中は眠った状態です。医師や看護師が常にそばにいますので、安心してください。

＊痛みは感じませんが、眠ってから鼻や尿道に管を入れることがあります。

5. 手術終了後

- 1) 麻酔科医が薬を調節して、徐々に目が覚めていきます。
- 2) 麻酔の覚め具合を確認するためにお名前を呼び、手を握るように声をかけます。
喉にチューブが入っているので声は出ません。麻酔が覚めたことを確認できたら、口のチューブを抜きます。



- 3) 口のチューブが抜け、呼吸や血圧が落ち着いたら、病棟に戻る準備をします。病室のベッドに移り、病棟看護師と一緒にお部屋へ戻ります。

＊痛みなどがありましたら、無理をせず必ず看護師に伝えてください。

Ⅲ. 付き添いの方の待合場所について

＊手術室の入口付近に、手術を待つ付き添いの方

と外来手術患者さん用の待合場所があります。

パーテーションで区切られている簡易的な場所になります。

＊感染予防のために、できる限り **1 人** での待合をお願いいたします。



Ⅳ. おわりに

- 手術終了から入院までの期間、手術室看護師が病棟のお部屋にうかがいに行くことがあります。

＊痛みの程度や手術後の状況などをお話ください。

- ご不明な点がありましたら、入院前は外来・入院後は病棟看護師または手術室看護師にご相談ください。

＊入院までの間は、人混みを避け、マスクをするなどの予防をして、体調管理に気を付けてください。

＊安全な手術ができるようにご協力をお願いいたします。